



1 日本語と欧米の言語

人類の歴史において、多くの言語は、当初は文字を持たず、文明の発達とともに様々なことを記録に残すため文字を発明し使い始めました。

日本語の場合は地理的にも歴史的にも近い中国で使われていた一字一字に意味を持つ漢字を表記文字として使い始めました。

日本人は、その後、ひらがな、カタカナといった一字一字に意味を持たない表音文字を作り出し、現在は、漢字・仮名など複数の文字を用いて様々なことを表現しています。

一方、英語など欧米の言語は、アルファベットという表音文字を組み合わせることで単語を作り、単語を文法に則って並べ、単語の間にスペースを用い、sentence (文) を作って、伝えたいことを表現しています。

従って、日本人にとっては、アルファベットを組み合わせることで意味を持つ単語を作り、それを文法に則って並べて表現する欧米の言語と、子供の頃から接してきた日本語とは、言語の成り立ちからして大きく違います。

英語は苦手という人が少なくないですが、本人が意識しないまま、根本的な原因が日本語とは全く違うコンセプトの言語の構成に起因しているという方もいるのではないのでしょうか。

2 日本の英語教育とビジネス英語

戦後、アメリカが世界経済の主導権を握る中、ビジネスの世界では英語が国際標準語となりました。21世紀に入って、その傾向は益々、顕著になってきています。

我々がグローバルにビジネスを展開しようとするば、英語のコミュニケーション能力はビジネスの成否を握るカギといっても過言ではないでしょう。

そうした中、日本の英語教育を振り返ってみると、語学を学ぶに当たっての土台となる英文法はしっかりと教育されています。また、英語を読む・書く・聞く・話すもひととおり教育がなされています。

ただ、大学受験では、話す能力を求められない大学が多く、話す能力を学生時代に磨いてきた人が少ないのも事実だと思っています。

こうした日本の英語習得の環境などを勘案すれば、海外のお取引先との商談にあたっては、日本人の得意な、読解力、文章構成力が生きる E-Mail を中心としたコミュニケーションを図ることの方が、スムーズに事を運べるように思います。

次ページに会話でのコミュニケーションと E-Mail を通じたコミュニケーションの比較についてまとめていますのでご参照ください。

	会話	文章
求められる能力	聞く・話す	読む・書く
主なコミュニケーション手段	対面会議、Web 会議	手紙、E-mail、書類 (Word、PowerPoint など)
使用環境	日本国内で、日常的に英語を聞く・話す環境にいる人は少なく、条件反射的に英語での問いかけに反応できる日本人は少ない	英語の読み書きは学生時代から何年も学んできており、時間を掛けても良ければ、先方の質問内容を理解するのは難しくない
IT ツール	旅行英語を通訳する機器はあるが、ビジネス会話を同時通訳できるパソコンソフトは知り得る限りで開発されていない	ここ数年で、パソコンのブラウザに搭載されている翻訳ソフトの変換精度が大幅に向上しており、文章の翻訳 (和訳/英訳) が容易にできる
誤解・誤認の防止	面と向かってコミュニケーションを取ることができるので、その場でミスコミュニケーションを防ぐことができる	文章や資料を通じたコミュニケーションなので、お互いが伝える力、理解する力があれば、ミスコミュニケーションを防ぎやすい
伝達内容の再確認の方法	Web 会議では録画機能を利用すれば後ほど観直すこともできるが、該当箇所をピンポイントで探し出すのは不便	プレゼンテーション資料は文章や図表として残るので、保存をしておけば何度も読み返すことができるし、該当箇所をすぐに探し出すのも容易
留意点	Web 会議では画面がフリーズしたり、接続が途切れたりといったことが、特に大人数参加の Web 会議では珍しくない	Word や PowerPoint は書類として残るので、書き手の文章力、論理構成力など様々な能力が読み手に伝わり、読み手のもとにずっと残ることとなる
	Web 会議を行うにあたっては、出席者の所在地の通信環境を整備し、時差も考えた上でスケジュール調整を事前に行っておく必要がある	ノートブック型 PC やスマートフォンの普及により、いつでも E-mail によるコミュニケーションを取れるようになった。その分、回答までの猶予は以前に比べ短くなった
	Web 会議参加者はカメラに写る範囲で確認することができるが、写っていない人物が存在するかどうかまでは把握できない	ビジネスに繋げるには、どこかの時点で出張や Web 会議といった Face to Face のコミュニケーションが必要で、E-mail だけで商売が完結するのは想像し難い
海外との時差	時差は障害となる	時差は味方になることができる

さて、これまでビジネス英会話のコツについて7回にわたって連載してきました。今回でビジネス英会話を中心とした連載を一旦終え、次回からは日本人にとって得意な分野である E-mail を通じた海外のお客様とのコミュニケーションのコツをご紹介しますと思います。